

令和6年度 学校自己評価表（計画段階・実施段階） 私立 東海大学付属福岡高等学校

学校運営計画（4月）								
学園運営方針	若き日に汝の思想を培え 若き日に汝の体軀を養え 若き日に汝の智能を磨け 若き日に汝の希望を星につなげ四つの言葉を基本理念として、人権尊重の精神に立脚し、人間・自然・歴史・世界・文明などに対する幅広い視野や、人生の基礎となる思想を養い、人生の意義について自ら学び考える力を育成する。21世紀を担う豊かな人間性を備えた創造性豊かな人材の育成をめざす。							
学校運営方針	私学の存在意義は、建学の精神に沿った教育と、時代の要請に応え柔軟に対応する特色ある教育にある。本校の教育は学園の基本方針に沿って、本来あるべき高校生活を十二分に展開する中で学習と教科外活動(部活動等)の両立に立脚した「人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成」をめざす。また情報化・国際化の進展に対応し、それぞれの教科においてその目的に沿った教育を展開する。併せて、地域社会との教育的連携・貢献をはかり、地域の要請に応える。							
2024年度学校重点目標								
昨年度の成果と課題	実践最重点目標	具体的目標				評価(3月)	成果と課題	
2024年度校務分掌・学年重点目標								
昨年度の成果と課題	分掌・学年	分掌・学年重点努力目標	具体的方策			平均		
<b>成果</b> 新課程に対応した教科教育の実践と本校の状況に応じた観点別評価を行う事が出来た。 の授業でICT聞きが活用される状況を作ることが出来た。  <b>課題</b> 新教育課程及び観点別評価、新教育課程への移行の中で、新しい取り組みを実践するだけでなく、早期に課題を見極めていく姿勢を持つことが課題である。	教務部	[1]基礎学力を高めつつ個性を伸ばす授業態勢の構築。	①円滑な授業が行われるための時間割作成と運用 ②試験や行事において、効果的に対応できる特別時間割の作成 ③学園基礎学力定着度試験の結果分析と検証 ④学校行事の充実化と連携した授業時間の確保			[1]	4	<b>成果</b> 本校の状況に応じた観点別評価を行うことができた。また、単元テスト導入し学習定着が見られるようになってきた。  <b>課題</b> 早期に課題を見極めていく姿勢を持つことが課題である。またSymphonyの円滑な運用が成績処理段階にてできていなかったため、スムーズなデータ提供ができるようになっていない。
		[2]コースに対応した授業環境の推進	①教科と連携した公開授業・研究授業の推進（研究部との連携） ②AI授業の構築と評価の在り方の検討 ③東海大学をはじめ、進路に応じた学力保障 ④スタディーサプリとポートフォリオの効果的且つ継続的な活用			[2]	5	
		[3]情報管理室、学年と連携した円滑な成績処理の推進	①校務システム（Symphony）の円滑な運用とデータ提供 ②新課程に伴う評価システムの見直しと成績処理システムの改良 ③非常勤講師との連携			[3]	4	
		[4]家庭と連携した生徒の授業に臨む姿勢づくり。	①保護者への確実な情報提供(成績・通知表への学年末5段階表示・行事等) ②三者面談の効果的な実施と成績不振者への年間を通じた指導の推進 ③成績不振者の指導のシステム化 ④生徒はもちろんのこと保護者に寄り添う指導を行い、転退学生徒を5名以内にする			[4]	4	
		[5]その他				[5]		
<b>成果</b> 基本的な生活習慣の確立については学年と連携した指導体制が円滑に進めることが出来た。  <b>課題</b> 身だしなみチェックや授業連絡票を用いての指導に温度差が生じていた点は課題である。	生徒指導部	[1]基本的な生活習慣の確立	①挨拶の励行(教職員間の挨拶の徹底、明るく爽やかな挨拶と正しい言葉遣いの推進)			[1]	4	<b>成果</b> 指導体制の確立と学年との連携、管理職との情報共有が体系化できたところは今後の指導の明確化につながった。また、生徒一人一人に合った指導にもつながった。  <b>課題</b> 規律や規範面の指導や、未然防止の観点からの指導が十分にできていなかったことは大きな反省点としてあげられる。次年度以降、未然防止に視点をあてた方策に力を入れ
		[2]指導体制の確立	②正しい服装の徹底(学年・クラスでの推進・各授業での指導、各集会での検査実施)			[2]	3	
		[3]部活動の推進	③時間の厳守(教務、学年と連携して遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底)			[3]	4	
		[4]安全教育の推進	④環境の整備美化の取組み(清掃方法の指導、用具の運営管理、特別大掃除の推進)			[4]	4	
		[5]問題行動の防止と再発防止	⑤各学年との連携を取っての指導体制を図る(特に3年生については、面接指導等において進路指導部との連携を図る)			[5]	3	
<b>成果</b> 進路説明会・面接指導の積極的な実施  就職専任進路担当者の配置による就職希望者100%の決定  教科担当者会議の充実による効果的な学習指導の確立 大学・短大の入試説明会への参加による積極的な情報の収集  <b>課題</b> 教科別の個別指導が十分ではなかった	進路指導部	[1]一貫教育の推進～付属推薦入学者25%、他大学を含む進路決定率100%をめざした進路指導の徹底 その実現のための各学年との連携強化。	①付属推薦を大前提とした各学年との一層の連携 (ア)1学年・・・進路説明会や学年の指導を通じ進路意識を芽生えさせる。東海大学をPRする。 (イ)2学年・・・学部説明会等で東海大学のPRおよび説明会等による推薦志望への導き。 (ウ)3学年・・・説明会・面談等による付属推薦希望者の確保。(大学進学率65%、決定率100%)			[1]	4	<b>成果</b> 進路説明会や面接指導を積極的に実施することができた。特に、東海大学熊本キャンパスとの連携をこれまで以上に強化することができた。 就職希望者に求人票を楽に閲覧できるシステムを導入できた。  <b>課題</b> 先生方の業務多忙の中、入試の多様化に対応するために、教員対象の説明会に参加してもらえるようにしたい。
		[2]効果的な進学指導	②東海大学熊本キャンパスとの連携強化。(生徒・保護者対象のオープンキャンパス等の企画と実施)			[2]	5	
		[3]就職希望者にむけた指導強化	③特別奨励入学制度の積極的PRによる優秀な付属推薦入学者の確保。			[3]	4	
		[4]各種情報収集・整理および閲覧コーナーの充実	④大学案内やパンフレットなど情報提供による1年生から効果的な進路指導の充実。			[4]	4	
		[5]スーパー特進難関コース・アスリートコースのそれぞれにおける目標設定とその充実。	⑤体験留学(農学部・海洋学部)PRによる参加者の増加に向けた取り組み。 ⑥他大学・短大進学希望者に対する指導体制の確立や説明会参加の促進。 ⑦学園基礎学力定着度試験や校外模試を活用した進学指導。 ⑧小論文指導・面接指導の取り組み。「現代文明論」や3学年団との連携による指導体制の確立。 ⑨進路意識を高めるガイダンス等の実施。 ⑩専門学校進学希望者への進路指導。 ⑪就職希望者への徹底した進路指導。 ⑫ガイダンスや面接指導を充実して、内定率100%をめざす。入社後の取組等も含めた指導。 ⑬東海大学関係をはじめとする国公立・有名私大・地元有名大学の資料提供。 ⑭進学I類・II類コース対象の補習実施 ⑮各模試のデータ活用。 ⑯3か年にわたる指導計画の確立と授業担当者による連絡会の開催。 ⑰スタディサプリによる宿題配信を強化し、さらなる学力向上に努める。			[5]	4	

<p>現代文明論の年間スケジュールの大幅変更を行い、その実施に際して、概ね順調にカリキュラムを進めることが出来た。</p> <p>探究的学習における教材を担当の先生方に提供する点においてはまだまだその種類が少ない。</p>	<p>研究部</p>	<p>[1] 高校現代文明論授業(創造性教育・知的財産学習を含む)の充実 [2] 人権教育・同和教育・道徳教育の推進 [3] 探究学習プログラムの確立 [4] 教職員の必要に応じた研修の計画と実施。 [5] 地域連携活動の推進。 [6] 生徒会活動の活発化。</p>	<p>① 新編高校現代文明論(テキスト)を軸に『建学の精神』を主体とした内容の構築 ② 習得分野の設定と授業計画を設定 ③ 現代文明論研究授業の実施(1年=11月、2年=10月に実施) ④ 7月・10月に実施する授業評価アンケートに基づいたベストティーチャーの選出と表彰 ⑤ 人権教育・道徳教育の推進による人権意識の高揚および「心の培養」とそれに基づく行動を実践 ⑥ 教職員研修の充実(進路指導研修・アクティブラーニング推進研修・タブレット活用研修他) ⑦ 生徒研修の充実(「宿泊研修」「修学旅行」など) ⑧ 外国語教育にとどまらない国際交流事業の啓発と推進(留学生等の受け入れ) ⑨ 学園オリンピック等の学園行事への参加促進</p>	<p>[1] [2] [3] [4] [5] [6]</p>	<p>4 3 4 4 3 4</p>	<p>成果 あらゆる学校行事(イベント)終了後、速やかに事後アンケートを行うことで即座に数値分析が出来るようになった。 課題 視聴可能な研修コンテンツを増やす。また教職員のニーズに応じた研修動画を提供することで意識高揚を</p>
<p>・頭髪服装指導は、共通認識理解のもと、同じ目線で指導が徹底できた。</p> <p>・不登校生徒に対する対応としては全クラスが家庭と連絡をとり落ち着いた指導を行う事が出来た。</p> <p>・学習指導において、コース類に応じた課題設定を的確に行う。このポイントで考えた時、教科担当との連絡を密にとる必要があるこの点は課題として残った。</p>	<p>1学年</p>	<p>[1] 高校生活への順応と基本的生活習慣の確立(礼儀、挨拶、言葉遣い) [2] 基本的生活態度の育成(社会で通用するマナー、価値観を身につけさせる) [3] 学習習慣・学習意欲の向上と環境づくり [4] 進路指導 [5] 保護者とのコミュニケーションを大切に、保護者から信頼される学年運営 [6] 各分掌と連携しつつ、学年主導による学年運営を行うこれにより個々の生徒へのきめ細かな指導を目指すとともに、各分掌のスリム化を促進する</p>	<p>① 校則の遵守(頭髪・服装・ルールの遵守など、全教員が同じ目線で指導を徹底する) ② 挨拶の励行(学校にかかわる全ての方々に対して心のこもった挨拶) ③ 出席の督促(正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす、問題のある場合はただちに家庭連絡や保護者との面談を実施) ④ 礼儀指導「学びの姿勢」を身につけさせる(高校は自己成長の場である。生活面・学習面において素直さ・謙虚さが大切な事を理解させる) ⑤ HR、授業時(挨拶の徹底、服装を直す、机を並べる、ゴミを拾う、聞く態度の指導) ⑥ 集会時(集合時間の厳守、聞く態度の指導、歌唱指導) ⑦ 「周りへの目配り気配り心配り」の意識高揚 ⑧ 学習に対する心構えや学習方法の指導(新カリキュラムへの対応) ⑨ 学習状況・理解度の担任把握(教科担当者との情報交換、面談等) ⑩ 学習環境の整備(教室内の整理整頓) ⑪ 補習・模擬試験・英検等への積極的参加(教科・進路指導部と連携して、HR・授業において積極的な参加を呼びかける) ⑫ コース、類に応じた学習指導(習熟度別、実力試験、家庭学習、補習等) ⑬ 保護者や部活動等とも連携し協力を得ながら徹底した基礎の習得に努め、高校本来の課程が等しく授業できるようにする ⑭ 進路指導部・教務部と協力して進路情報を提供し、1学年終了までに進路の方向性を出せるような指導をおこなう ⑮ ポートフォリオの活用によりボランティア等の校外活動を積極的に促進する ⑯ スタディーサポートを活用した個別面談の実施、進路意識の発揚</p>	<p>[1] [2] [3] [4] [5] [6]</p>	<p>4 4 3 3 4 4</p>	<p>成果 2学年に進級することができた中で、校則の遵守や挨拶の励行、礼儀指導といった基本的生活習慣と行動を身につけることができた。 課題 進路に向けての学習状況の更なる向上が必須となる。また、進路意識に個人差も大きいため、2年次には学年を通して指導に心掛けたい。</p>
<p>目標設定の在り方を生徒自らが模索する時間を積極的に設けることが出来た。</p> <p>・校則に対して学年教員が共通認識のもと、指導を行うことが出来た。</p> <p>・コロナ以降集会時の校歌、建学の歌斉唱指導が難しくなっている。元気に歌うよう導きたい。</p> <p>・ポートフォリオ入力の個人差が大きい。しっかりと質や入力状況 差が大きい、しっかりと質やを把握し、継続的な指導を行いたい。</p>	<p>2学年</p>	<p>[1] 基本的生活習慣の確立 [2] 態度教育(社会で通用する価値観を身に付けさせる) [3] 学習意欲の向上と環境づくり [4] 進路指導 [5] 保護者への情報提供</p>	<p>① 校則の正しい理解とその遵守(頭髪・服装など、全教員が同じ目線で指導) ② 時間の厳守と出席の督促 ③ 清掃の徹底(社会に出て求められる責任感の涵養。学習に専念できる環境作り) ④ 出席の督促(正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす、問題のある場合は早めに対処。(連絡・確認・家庭訪問など必要な対応) ⑤ 学びの姿勢(態度)を身につけさせる(謙虚さ・前向きな態度の大切さを理解させる) ⑥ 挨拶、ことば遣いの指導(心のこもった挨拶とTPOを考えてことば遣いの指導) ⑦ HR、授業時での指導(服装、教室の整備美化、聞く態度の指導を徹底する) ⑧ 集会時(集合時間の厳守、聞く態度の指導、体育館シューズの徹底、歌唱指導) 【学習習慣と環境づくり】…「生活学習記録票」を活用した指導。 ⑨ 学習習慣の確立(家庭学習の習慣化) ⑩ 学習状況・理解度の正副担任把握(教科担当者との情報交換、生徒への声かけ、七つの学力の獲得) ⑪ 学習環境の整備(教室内の整理整頓、掲示物による学習意欲の向上の工夫) ⑫ 模擬試験・英検などへの積極的参加(教科・進路指導部との連携、HRでの働きかけ) ⑬ スーパー特進生徒に対する進路希望を反映した積極的な学習指導(難関大学・難関学部学科への合格を目指す) ⑭ ポートフォリオの入力を通じて、1年間の成長を明確にする。 ⑮ 進路指導部・教務部と協力して進路情報の提供 担任・運営委員の協力による面談の実施 ⑯ 12月の進路希望決定をめざす指導(付属推薦制度を利用した取り組み) ⑰ リアルな教育活動を通して様々なことにチャレンジさせる ⑱ 生活面・学習面についてのきめ細かい指導と家庭への連絡 ⑲ 学年だよりによる保護者への情報提供</p>	<p>[1] [2] [3] [4] [5]</p>	<p>4 3 4 5 5</p>	<p>成果 高大連携事業により開かれた東海大学九州キャンパスへのオープンキャンパスに100名近い参加を募るなど、大学進学への意識や東海大学への興味関心を高めることができた。 修学旅行での満足度を高めることもできた。教員と生徒のコミュニケーションが良くとれている。 課題 多くの特別指導者、転学者を出した。その個人をとりまく家庭環境による影響が大きいと感じているが、粘り強く3年間指導し、全員が卒業できるように配慮、先回りしていきたい。</p>
<p>付属推薦進学者の目標にはやや届かなかったものの2年次より継続的に情報提供を行ってきた成果が現れた形である。</p> <p>進学コースの生徒に対しても積極的に模試受験の督促や計画的な課題配信を行ってきた。この点が学力向上に繋がっていることは成果である。</p> <p>年度末の登校に際して、かなりの数の欠席生徒が出た。部活動生の退寮など、仕方ない面もあるが、来年度の課題といえる。</p>	<p>3学年</p>	<p>[1] 進路目標の実現とそれに向けた具体的な取り組み [2] 各校務分掌と連携した生徒指導 [3] 学習指導 1 意欲の向上と環境づくり 2 大学進学を目指す学習指導</p>	<p>① 生徒・家庭との連携を高め、転退学者0を目指す。 ② 東海大学への付属推薦進学受験者100名(27%)以上を目指す。 ③ 放課後補習や課題配信を通して学習時間定着をはかる。 ④ 国公立・難関私立大学への合格者を増やせるよう進路指導部と連携する。 ⑤ 外部進路講座などを利用し、進学・就職についての意識を高める。 ⑥ GTEC試験への目標を明確にさせ、点数を伸ばす。 ⑦ いつでも面接を受けられるような身だしなみの徹底。 ⑧ ボランティア活動など積極的な活動を促す。 ⑨ 最上級生として、学校行事等の運営の先頭に立つとともにイベント充実させる。 ⑩ 他学年・他分掌・教科担当者との連携を深めていく。 ⑪ 清掃の徹底(社会で求められる責任感の涵養) ⑫ 出席の督促(正当な理由のない欠席・遅刻・早退の撲滅。進路を意識した指導) ⑬ 集会時のマナー徹底(集合時間の厳守、服装、聞く態度、歌唱の指導) ⑭ 健康推進室と連携した生徒の健康管理 ⑮ 意欲の向上と環境づくり 1 学習環境の整備(教室内の整理整頓、掲示物による学習意欲の向上の工夫) 2 模擬試験・英検等への積極的参加(教科・進路指導部と連携して、HR・授業において積極的な参加を呼びかける。) ⑯ GTEC 特進780点・I類690点・II類460点 ⑰ 大学進学後を意識した基礎学力の指導と、一般入試・推薦入試での進路決定を実現させるための学習指導。 ※授業以外での継続的・計画的な個人指導の工夫。 ⑱ 特進担当と連携した課外授業・模擬試験への参加を積極的に指導する。</p>	<p>[1] [2] [3]</p>	<p>4 5 4</p>	<p>成果 付属推薦進学者の目標にはやや届かなかったものの2年次より継続的に情報提供を行ってきた成果が現れた形である。 進学コースの生徒に対しても積極的に模試受験の督促や計画的な課題配信を行ってきた。この点が学力向上に繋がっていることは成果である。 また最上級生として様々なイベント等で団結し先頭にたつてくれた。 課題 年内入試での進路決定者が多数のため学校生活へのモチベーションの維持させるための方策は今後も課題として残る</p>